

記者募集

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。留学生も「学生記者」として活躍しています。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などで協力してくれる学生もぜひ参加してください。

連絡はこちらまで josaisports@josai.ac.jp

第90回箱根駅伝 未来へ リベンジ誓う



6区の菊地(左)=写真：陸上競技社提供
5区の黒川(右上)、3区の横田(右下)=吉田美咲撮影

新春の訪れを告げるのは大学生ランナーの汗と涙の物語——お正月の風物詩となった箱根駅伝は90回を迎えた。城西大学男子駅伝部は11年連続11回目の出場となり、前大会の雪辱を胸に黄色のたすきを掛けて箱根路へと駆け出した。

また、昨年末には世界遺産への登録が決定した富士山の麓で、全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)が開催された。当地では初開催となった大会で、城西大学女子駅伝部は見事8位に入賞した。

【知見寺美紀】

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走が1月2日、3日の2日間にわたり開催され、城西大学は総合19位という結果に終わった。

前大会は5区途中棄権により総合結果が残らなかった。今大会はその巻き返しを狙った。1区に起用されたのは主将の山口浩勢(経営4)。スタートから区間記録並みのハイペースでペースが進む中、山口は先頭集団に必死に食いあいつこうとする。しかし7キロすぎに先頭集団から離れると、右足が痛むなどして鶴見中継所には19位でたどり着く。花の2区と呼ばれるエース区間には、予選会を日本人トップのタイムでフィニッシュしたチームのエースである村山紘太(経営3)。前方のランナーがなかなか見えない、1人旅の苦しい状況で前を追った。オーバーペースで入ったことにより終盤に失速。区間18位で順位を一つ上げるにとどまった。主将とエースを送り込んだ1、2区の失速が大きく響き3区の横田良輔(経営3)、4区の松村陣之助(経営1)も区間18位、15位と順位を上げるのができなかった。箱根駅伝最大の難関である山止りの5区に起用されたのは黒川遼(経営3)。今シーズンは1万円で自己ベストを出すなど上りの調子だったが、箱根の山は大きく立ち回らなかった。小田原中継所でたすきを受けた際には、前方にランナーが見える位置だったが、徐々に離されていった。区間15位、総合20位で往路フィニッシュ。トップとは17分14秒差をつけられた。

復路はトップと10分差以上ついたチームは一斉スタートとなる。6区は1年の菊地聡之が起用された。走行順と総合順位が違っていたが、冷え込む箱根の山を一気に駆け下りた。区間6位の堂々とした走りでも総合順位を一つ上げ19位に。1年生の活躍で往路の悪

い流れを断ち切るかに思えた。7区の佐野瑛一朗(経営4)は最初で最後の箱根駅伝。6区からのいい流れを生かしたかったが区間19位で総合順位一つ下げた。

8区の河名真貴志(経営2)は一つ順位を上げて総合19位で9区の寺田博英(経営3)にリレー。復路のエース区間である9区に起用された寺田だが、なかなかペースを上げられない。鶴見中継所ではトップが通過してから20分が経過すると繰り上げスタートとなるが、その時間が一刻と迫る。トップ通過から20分、無情にも繰り上げスタートとなり、それまで繋いできたたすきが途切れてしまった。10区の杵島凌太(経営3)は当初エントリーされていた弟・啓太(経営3)からの変更で出走。力走及ばず、総合19位でフィニッシュし今大会を終えた。

Interview

榑部静二監督

男子駅伝部の榑部静二監督に今大会を振り返ってもらった。

大会全体を振り返って。

1、2区で出遅れたことが大きかった。「流れ」に乗ることができなかった。4区の松村陣之助(経営1)など調子のいい選手もいたが、悪い流れに飲み込まれてしまった。

区間エントリーを決めるにあたってのポイントは。

どのチームも往路重視の構成をしている。中でも1区、2区、5区は重要な区間でチームの軸となる選手を起用する。特に2区と5区は特殊な区間なので、選手の適性を見ながら早い段階で方向性は決めていた。

大会前はどのようなレースを考えていたか。

過去の大会でシード権を取った

とき、1区でうまく流れに乗ることができず、そのあとの展開もいい方向に流れていった。それで1区を重要視して主将の山口浩勢(経営4)を起用した。

1区がハイペースになったことについて。

ハイペースになることは予想していた。山口には、はじめスローな展開だったら先頭についていく、あまりにも速いペースだったら第2集団についていくという指示を出した。

6区の菊地の走りがよかった。

練習の中で上りも下りも器用に走っていた。6区は下りと思われがちだが、最初の5キロは急な上り坂。それを踏まえると上りをうまく走り切れ、さらに下りも行けるという選手を考えたところ菊地を起用することに。この起用はきちんと当てはまったのではないかと考えている。

復路は一斉スタートで実際の順位より上の位置で走る場面が多

第62回元旦競歩大会 20分□ 割田3位



1月1日に東京都の明治神宮外苑絵画館周回路で行われた第62回元旦競歩大会で、割田仁志(経営4)が男子一般・大学20分□競歩の部に出場、1時間23分55秒のタイムで3位に入った。この記録は大学新記録であると同時に、オリンピックB標準記録、世界選手権A標準記録を上回るものだった。この好記録について割田は「夏からの目標だった世界選手権のA標準記録をやっとクリアできた。この大会は順位よりもタイムにこだわって出場したので、標準記録を切ったことを評価したい」とうれしそうに語った。タイムにこだわった大会だったが「2位との差が20秒くらいあったので欲を言えばもう一つ順位を上げたかった」と少し悔しそう。

次は2月に兵庫県で行われる日本選手権20分□競歩に出場する。「自己ベストと8位入賞を目指したい。そしてオリンピックのA標準記録(1時間22分30秒)を切りたい」と意欲的だ。今回の元旦競歩で国際大会の標準記録を切ったことで、はっきりと世界を意識できたという。「標準記録突破は通過点なので、目標である日本代表になれるように努力していきたい」。割田は今シーズン好調を維持しているだけに、次の大会でも好記録に期待したい。【知見寺美紀】

1時間23分55秒 世界A標準上回る

下位チームで争うよりは強いチームと争うことで、チームの順位を上げることに繋がる。前が見えたらしっかり追う、という指示を出していた。復路のスタート区間である6区の菊地の頑張りでも、上位チームと一緒に走ることができた。

優勝タイムが11時間を切るような時代になってきた。

簡単に優勝とは言えない。確実に10位以内を走ることがシード権を確保することができるし、6位以内も狙える。ミスのない、普段の練習ではけがのない走りを目指したい。

山対策について。

昨年から山に対する準備でデータをとりながら、山で結果を出せるような方向で進めている。明るいい材料もある。新しいトレーニング方法も取り入れながら強化をしていきたい。

運営管理車からどのような指示を出すか。

基本的には自分たちの位置を伝えること。一つ前、二つ前のチーム、後ろのチームとのタイム差などを伝えることが多い。

新主将に村山紘太が就任した。

部員の中でもリーダー的存在で、学年の中でのリーダーを務めることがあった。それに加えて競技力もあることから村山を主将として指名した。

来シーズンに向けて。

けがをしないことを大前提にやっていきたい。新4年生は村山を筆頭に力のある選手が多く、城西大学史上最強の世代と言ってもいい。春のトラックシーズンは全日本大学駅伝の予選会の通過を目標に、秋は箱根駅伝の予選会の通過を目標にやっていく。また今回の箱根駅伝を経験した選手が8名残るので、経験を生かしながら安定した成績を残せるようにしたい。

【聞き手・知見寺美紀】

悔しさバネに駆け上がれ!!

——城西ランナーの声



7区の佐野

4区・松村陣之助 (1年)
中盤で前の選手を抜くことができたが、14区あたりで足が止まったところで、切り替えることができて神奈川大の選手に抜かれた。そこで

3区・横田良輔 (3年)
順位を一つ下げてしまった。抜かれたときに、みんなの顔だったり、監督の顔だったり、応援してくれる人たちの顔が浮かんできて、申し訳ない気持ちになった。また、ここで勝負するために、勝つために、今度はいい報告ができるように頑張る。

5区・黒川遼 (3年)
5区は歴代の先輩も流れを変えて区間として頑張ってきた。自分もそういってきたが、上りで足が止まってしまった。思い通りの走りもできなかった。復路組の皆さんも力を合わせることもできず、悔しい思いをしてしまった。来年こそ強い城西大として帰ってきたい。

7区・佐野瑛一朗 (4年)
4年生として昨日の流れを変えようとしたが、逆に菊地がついてくれた流を切るような走りをしてしまい、力のなさにとても恥ずかしい。これが最後のので、来年からはOBとしてチームの力になりたい。

9区・寺田博英 (3年)
自分の話にならない走りのせいで、1区からつないでできたタスキを(杵島)凌太、チームメイト、応援の方々に本当に申し訳ない気持ちでいっぱい。この1年、もう一回しっかり頑張って、来年笑顔で結果報告ができるよう頑張る。

10区・杵島凌太 (3年)
チームメイト全員のことを引き継いで区間順位を上げ、来年につなげようという思いで走ったが、集団に追いつかれてしまった。後半、ペースを落としてきつい思いをした。いい結果を残せず、本当に申し訳なく思う。城西大学は19位で終わるようなチームではない。チーム全員でこの悔しさを共有して、このチームを引っ張れるように頑張りたい。

箱根駅伝の報告会はレース終了後、ゴール付近で行われた。19位という結果に涙ぐむ選手も。それでも下級生からは「リベンジ」を誓う発言が相次ぎ、応援に駆け付けた教職員や同窓会、父母後援会の人たちからは「頑張れ」の声が飛んだ。



9区の寺田

8区・河名真貴志 (2年)
15区過ぎから集団についていくはずだったが、そこで粘れなくてずるずる落ちてしまった。そのまま19位の結果となってしまう寺田さんにタスキを渡すことができなかった。憧れだった箱根駅伝で走れたのはうれしいが、記録をしっかりと残せなかったのはす

9区・寺田博英 (3年)
自分の話にならない走りのせいで、1区からつないでできたタスキを(杵島)凌太、チームメイト、応援の方々に本当に申し訳ない気持ちでいっぱい。この1年、もう一回しっかり頑張って、来年笑顔で結果報告ができるよう頑張る。

10区・杵島凌太 (3年)
チームメイト全員のことを引き継いで区間順位を上げ、来年につなげようという思いで走ったが、集団に追いつかれてしまった。後半、ペースを落としてきつい思いをした。いい結果を残せず、本当に申し訳なく思う。城西大学は19位で終わるようなチームではない。チーム全員でこの悔しさを共有して、このチームを引っ張れるように頑張りたい。

10区・杵島凌太 (3年)
チームメイト全員のことを引き継いで区間順位を上げ、来年につなげようという思いで走ったが、集団に追いつかれてしまった。後半、ペースを落としてきつい思いをした。いい結果を残せず、本当に申し訳なく思う。城西大学は19位で終わるようなチームではない。チーム全員でこの悔しさを共有して、このチームを引っ張れるように頑張りたい。



写真：陸上競技社提供



女子駅伝部 8位入賞

全日本大学女子選抜駅伝競走

昨年12月23日、世界遺産登録の決まった富士山を舞台に全日本大学女子選抜駅伝競走が行われた。富士山本宮浅間大社前からスタートし富士総合運動公園陸上競技場を目指す全7区間43・4キロのコース

1区片貝洋美(経営4)が15位でスタート。大学駅伝初めの池神悠希(経営3)が2区で2人をかわし、3区谷町衣里奈(経営3)に繋ぐ。続く谷町も2人を抜き最長区間を走る橋本奈海(経営4)、5区の梅原凌(経営3)が順位をキープし、6区茂木美優(葉幸子)が2人抜き、最終区間和田春香(経営1)へ繋ぐ。最終区は

1区で出遅れたが全員でカバーできたことが今回の入賞に繋がったのだろう。新チームでのスタートを応援しよう。
【吉田美咲】

快走した1年生アンカー 和田春香 (経営1、写真)

「全日本駅伝では1区を走ったが流れを作る走りができなかった。選抜駅伝では4年生に笑顔で引退を迎えてほしいという思いで走った。コースを見たときから7区を走りたいと思っていた。全日本を終えてからずっと7区を意識して練習していた。その結果、11月の記録会で自己ベスト更新、選抜駅伝でも実力通りの走りがあった。ただ、区間賞の選手とのタイム差は大きく、まだ実力が足りないと感じた。2学年となり全日本のシード、関東インカシでは表彰台、駅伝でも主要区間でチームに貢献することを目標に頑張っていきたい」
【聞き手・吉田美咲】



「そして、また 大手町へ」

Interview

新キャプテン 村山紘太 (経営3、写真右)

6区力走 菊地聡之 (経営1、同左)

今回の成績は厳しい結果に終わった。新キャプテンに決まった村山紘太選手(経営3)と山下りの6区で区間6位と気を吐いた菊地聡之選手(経営1)に聞いた。

——新キャプテンとしての抱負を。

村山選手「箱根では力を出し切れず、応援してくれた方々には申し訳なかった。結果的に1年生に頼ってしまった。どん底を見たので、這い上がるしかない。今回は昨年の途中棄権よりつらい繰り上げスタートだった。区間

タートだった。最後の箱根は4年間の集大成。今まで以上に求められるから、やるしかない。今回の結果では軽々しくは言えないが、新キャプテンとしてシード権を取れるようなチーム作りをしたい」

——菊地選手は初の箱根で大健闘だった。

菊地選手「レース前は緊張よりワクワクした。走っている時は新鮮な気持ちだった。自信もあったし、箱根という大舞台で走れる喜びがあった。一斉スタートだったが、区間

順位を上げることだけを考えた。1年間基礎を鍛えたので、2年時ではさまざまな大会に出て経験を積み年になりたい。そして、また大手町に戻りたい」

——鉄道好きの菊地選手。今年の個人的な目標を聞いたところ、「今年こそは(大宮の)鉄道博物館に行きたい」と笑顔で付け加えた。村山選手は「今年は欧州遠征にも挑戦したい」と力強く語ってくれた。

【聞き手・中村亮介】

| 取材スタッフ | | アドバイザー | |
|--------|--------------|-------------|-------------|
| 編集長 | 経営学部3年 知見寺美紀 | 経営学部3年 佐久間峻 | 経営学部2年 吉田美咲 |
| | 経営学部4年 久村洋介 | 葉学部3年 斎藤明彦 | 経営学部2年 佐川由紀 |
| | 経営学部4年 伊藤香澄 | 葉学部3年 小峯大輝 | 葉学部1年 巻幡仁美 |
| | 経営学部4年 中里絵美 | 経営学部3年 関原彰賀 | 葉学部1年 松岡遊史 |
| | | 経営学部3年 中村亮介 | |

2013年卒業
原駿介
寺田登
森優紀
金子亮
江田悠真